

Reader's VIEW

2016 Vol.1 特集「学習態度の改善を『主体的な学び』につなぐには」へのご意見

このコーナーでは、編集部寄せられた読者の先生方からのご意見をご紹介します。

*『VIEW21』教育委員会版のバックナンバーは「ベネッセ教育総合研究所」ウェブサイト (<http://berd.benesse.jp/>) でご覧いただけます。

◎探究型の学習が奨励されていますが、第1特集5ページのデータのように、子どもたちが従来型の指導を否定しているわけではないという事実にも目を向けるべきだと思います。身につけさせたい事柄に応じた使い分けこそが重要で、表面的な言葉遊びに終始させてはいけないことを、子どもたちが教えてくれたように感じました。(兵庫県)

◎第1特集の座談会で述べられていた「指導の標準化」に大いに共感しました。前任校では、校務改革の一環として、授業のスタンダードを明確にし、転任者も含めた全教員が、年度当初から共通して指導に取り組めるようにしました。それらの取り組みを通して、児童も教員も安定した学校生活を送ることができるようになったと思います。(熊本県)

◎子どもたちの主体的な学びを進めていくために、「分かったふりをせず、『分からない』と言える子どもを育てる」ことに共感します。分からないまま、授業に参加しているふりをしているから、ますます分からなくなる。ただ、これには教員側の見取りや、学級全体の受け入れ態勢、時間の確保などの課題があり、これらの課題にどこから取り組むべきか、じっくり見極める必要があります。(広島県)

◎第1特集の「座談会を終えて」にあった「地域として育成したい人物像の明確化」という言葉が新鮮でした。小中連携が叫ばれるようになってから、学力や体力の向上などで共通の取り組みを行ってきましたが、育成したい人物像の共有はあまり考えたことがありませんでした。(東京都)

◎小規模校では、活動の規模が小さくなる、アイデアを展開させにくいなどの課題ばかりが目立ちがちです。それらを、タブレット端末を用いた学校間連携によって打開しようとする、第2特集で紹介された新潟県南魚沼市の発想は、新鮮な発見でした。今後も実践を続けて、データを蓄積してほしいと思います。(新潟県)

◎第2特集で「5年先に行く」と言い切る岐阜県岐阜市には、戦略と戦術が確立し、勇気と努力があってこそその言葉だと感銘を受けました。また、長良川学園のインプットを重視した上でアウトプットの質を高めるという手法は、まさに英語教育の目指す姿だと思いました。(千葉県)

◎岐阜市の事例にあった「アゴラ」のようなスペースは、以前から学校独自の施設として空きスペースがあれば設営されていたと思いますが、行政が全校に整備すると宣言した姿勢が素晴らしいと思います。宝の持ち腐れにならないような運用が学校に委ねられており、どのような発展があるのか、今後に期待したいです。(愛知県)

◎大きな自治体と比べて、小さな自治体がすべて不利だとは言えません。小さいからこそ、住民の声を生かし、人と人との結びつきを大切にできる取り組みができるのです。地方創生が叫ばれる中、大切なのは我が町村のよさをいかに理解し、活用するか。本気で考えれば知恵はおのずと出てくることを、「小さな教委の大きな挑戦」から感じました。(岡山県)

◎「5年後の英語教育」の記事で、「教員の英語力＝指導力ではない」という言葉に共感しました。プロ野球の世界でも、名選手が名監督とは限りません。大事なのは「教える方」。そこを勘違いして、「発音ができないから」「英語が苦手だから」と尻込みするのではなく、たどたどしくてもよいから教員自身がどんどん話していくことが、小学校段階では大切だと思います。若手からベテランまで、どの教員も英語の授業ができる必要があるのです。(兵庫県)

◎英語力を把握するための方法として、CAN-DOリストがあります。「5年後の英語教育」の中に書かれていた、CAN-DOリストが「TO-DOリスト」や「WISHリスト」になっていないか再確認が必要という提言は、真の英語力を高める上で大切なことだと痛感しました。(青森県)

編集後記

第1特集で取り上げたプログラミング教育で古河市立大和田小学校を取材したのは、ちょうど小学校のプログラミング教育必修化に向けて、文部科学省で有識者会議が行われた時期でした。会議では、「コーディングスキル(プログラミング言語の使い方)ではなく、『プログラミング的思考』を身につけることが大切」と語られていましたが、同校でもコーディングスキルではなく、思考力育成に重点が置かれていました。これをどう「プログラミング的思考」につなげるか、今後が楽しみです。(岡本)

VIEW21 教育委員会版 2016 Vol.2 2016年7月15日発行/通巻第6号

発行人 山崎昌樹
 編集人 春名啓紀
 発行所 (株)ベネッセコーポレーション
 ベネッセ教育総合研究所
 印刷製本 凸版印刷(株)
 編集協力 (有)ベンダコ
 執筆協力 中丸満、二宮良太、長谷川敦
 撮影協力 荒川潤、谷口哲、ヤマグチイキ

◎お問い合わせ先
 フリーダイヤル 0120-350455
 〒700-8686
 岡山市北区南方3-7-17